

1. 件名：「泊発電所3号機の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（146）」

2. 日時：令和4年10月19日（水）10時05分～12時05分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、佐口主任安全審査官、谷主任安全審査官、西来主任技術研究調査官、藤原主任安全審査官、馬場係員、松末技術参与、杉野統括技術研究調査官、道口主任技術研究調査官、山下技術研究調査官

北海道電力株式会社：松村執行役員 他8名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

<<本年10月11日に受取済み>>

・泊発電所3号炉 基準津波に関するコメント回答

（地震に伴う津波と地震以外の要因に伴う津波の組合せ）

時間	自動文字起こし結果
0:00:02	原子力規制庁の谷です。ヒアリングを始めたいと思います。本日の案件としては、泊発電所3号炉基準津波に関するコメント回答。
0:00:12	地震に伴う津波と地震以外の要因に伴う津波の組み合わせということで、10月11日11日に資料が提出されていて、これに基づいてまず説明をしていただきたいんですけど、そのあとですね。
0:00:26	あとは本日付で、資料いただいています。作業スケジュール、
0:00:32	の説明も聞くんですけど、まず津波の方の資料を説明ください。お願いします。
0:00:41	はい。北海道電力の松村です。
0:00:44	本日よろしく願いいたします。まず基準津波に関するコメント回答につきまして、青木の方から説明させていただきます。説明時間30分程度を予定しておりますよろしく願いいたします。
0:00:59	規制庁の谷ですけどちょっと言い忘れちゃったけれども、
0:01:02	あれですよ説明、30分かかって言うけど、内容としては
0:01:09	波源の
0:01:11	これコメント回答以外のところも、
0:01:14	資料ついてますけどそのは下の分析のところの、
0:01:18	内容に絞って説明されるっていいですかね。
0:01:25	はい。その予定でございます。
0:01:28	はいそのようお願いします。
0:01:31	北海道電力の青木から説明させていただきますと資料のほうは基準津波に関するコメント回答で説明させていただきます。
0:01:41	まず、ページめくっていただいて目次でございます。
0:01:44	今回の説明については、5ポチの組み合わせの評価についてメインで説明させていただきます。
0:01:51	とこの内5.1から5.4章につきましては9月16日の前回の審査会で説明しておりまして、内容については同様なので説明を割愛させていただきます。
0:02:02	また今回5.5章の組み合わせ評価に関する分析を追加いたしましたのでここに関する内容について主に説明させていただきます。
0:02:12	続いて3ページお願いいたします。
0:02:15	こちら今回の資料の説明範囲になっております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:19	このうちのテキストボックスの一番下側の矢羽根、組み合わせ評価に関する分析につきましては指摘事項のNo.31の対応というところでご説明させていただきます。
0:02:31	ページが飛びまして9ページ、お願いいたします。
0:02:37	こちら指摘事項No. 31の指摘事項と回答方針のページになります。
0:02:44	指摘事項のおさらいになりますが、以下の事項についての十分な説明を行った上で、泊発電所の特徴を踏まえた組み合わせ評価の妥当性及び敷地に対して大きな影響を及ぼす波源の選定の妥当性を示すこと。
0:02:58	地震に伴う津波と地震以外の要因に伴う津波のそれぞれの水位時刻歴は形を示し、津波の重なり方の状況等を説明することと組み合わせ評価による評価結果の特徴、
0:03:11	波源パラメーターと地形モデルによる傾向の違いを把握し、組み合わせ評価において各評価項目で最大になる波源が地震に伴う津波の評価結果と異なる波源になることについて分析考察を行うことを、
0:03:25	補聴器の検討については、幾つかの地形モデル菵野分析した段階で中間報告を行うことになっております。
0:03:32	こちらに対する回答方針としては右側に示しておりまして、まず一つ目の丸、中間報告の対象としましては、上昇側の評価項目であります防潮て前面、3号炉取水口、12号炉取水口放水高、
0:03:47	を対象に検討いたします。
0:03:49	またこれらの評価項目の最大値になる地形モデルであります健全地形モデルと、防波堤の損傷を考慮した地形モデル②パスティペンデンシーモデルと、
0:03:59	検討対象といたしますと三つ目のマル。
0:04:02	組み合わせ評価における波源パラメーター、地形モデルによる傾向の違いを確認することを目的として、各地形モデルの最大ケースの波源の関係を明確にするために、地震に伴う津波の最大ケースの分類をまず行います。
0:04:18	その後は元の入れ替わりが発生したケースにつきましては断層パターン7のケースであるということがわかりましたので、これらのケースの水位の上昇は、
0:04:28	上昇する理由について、水位時刻歴は径と水位分布による分析を行っていきます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:34	時刻歴は系では、3号炉取水口、12号の取水口放水工を対象に、波源のパラメータによる傾向の違い、地形モデルによる傾向の違いを確認いたします。
0:04:45	透水分布による分析では防潮で全面を対象に検討いたします。
0:04:50	そして最後に暮らします。
0:04:52	お水分布による分析のご説明をいたします。
0:04:55	こちらとして大きな影響を及ぼす波源地形モデルの特徴を確認いたします。
0:05:00	詳細な議論になりましてページ大きく飛びまして、133ページお願いいたします。
0:05:09	こちら5.5の組み合わせに関する分析の説明になります。
0:05:14	8ページめくっていただいて134ページ。
0:05:18	冒頭に評価方針示しておりまして、こちらについては先ほどのコメント回答の方針と同様ですので説明を割愛いたします。
0:05:26	と続いて136137ページをお願いいたします。
0:05:32	こちらは前回の会合で示した内容のおさらいになりますが、地震に伴う津波の最大ケースの一覧とさ、組み合わせの最大ケースの一覧をそれぞれのページで掲載してございます。
0:05:43	まず、136ページの地震に伴う津波の最大ケースですが、
0:05:49	まず健全地形モデル、一番左の列のものにつきましては、ケース①からケース④の四つの波源が選定されております。
0:05:58	左から2列目、防波堤の損傷を考慮した地形モデル①ではケース⑤からケース⑨の五つの波源が選定されております。
0:06:08	続いて137ページの方をお願いいたします。
0:06:12	こちらは地震に伴う津波の最大ケースに対して、衛藤波源の断層パラメータが一致しないケースというものを朱書きで明記したものになっております。
0:06:23	ここは下断層パラメータが一致しない場合を、以降は元の入れ替わりと表現して説明させていただきます。
0:06:31	と続き138ページをお願いいたします。
0:06:35	こちらは検討対象とする評価項目と地形モデルについての説明となります。
0:06:41	当対象につきましては、上昇側を評価対象としまして膨張で前面から放水高、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:47	というところで下段にそれらの最大ケースを掲載してございます。
0:06:52	このうち評価項目に対して最大値になるものを仕分けで書いておりました、その地形モデルというものが健全地形モデルと防波堤の損傷を考慮した地形モデル①、
0:07:03	になるというところからこれらを対象にしております。
0:07:07	具体的には放水工については、10.04の数字が最大値になっておりました健全地形モデルで最大とそれ以外の膨張で前面から12号炉取水口については、
0:07:19	衛藤数字14.1111.82、11.84と。
0:07:24	これが最大の数字になるので防波堤の損傷を考慮した地形モデル①を検討対象にしております。
0:07:30	続いて139ページお願いいたします。
0:07:34	ここでは最大ケースの分類と分析の目的について整理してございます。
0:07:40	当組み合わせ評価における売上のパラメーターによる傾向の違いと地形モデルによる傾向の違いを確認することを目的としまして、
0:07:50	健全地形モデルの最大ケースのケース①から④と、防波堤の損傷を考慮した地形モデル①の最大ケースであるケース⑤から⑨の、
0:08:00	波源の関係を明確にするため、地震に伴う津波の最大ケースの分類を行っております。
0:08:07	注釈で書いておりますが、
0:08:10	分類の仕方にあたっては水位の変動幅が大きい因子が概略パラメータスタディの評価因子であります、断層パターンとアスペリティ位置に関するパラメーターであることを踏まえ、
0:08:21	これらに着目して分類しております。
0:08:24	それらの結果が左下の表に書いておりました、
0:08:28	衛藤。
0:08:29	左の二つが健全地形モデルと防波底の損傷を考慮した地形モデル①の最大ケースをそれぞれ書いております。
0:08:37	その分類結果というところで色分けしておりますが、それぞれ6-D南21-D南16-D北17-D6のc f
0:08:49	という5種類の分類結果に分けてこれ以降の結果を整理してまいります。
0:08:56	次の140ページをお願いいたします。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:01	検討対象に着目して波源の入れ替わり状況を確認したページになります。左側が地震に伴う津波の最大ケースと右側が組み合わせの最大ケースになっております。
0:09:13	こちら見ていただきますと波源の入れ替わりが発生したケースにつきましては、いずれも水色のハッチングで示しております。なのでに関する波源であるというところから、
0:09:24	この7-Dのケースの次の水位が上昇する理由について、水位時刻歴は径と水位分布による分析を行っていきます。
0:09:33	当水位時刻歴は系では、各取放水高に着目した整理水位分布では防潮て前面の評価項目に対する評価を実施する。
0:09:44	流れにしております。
0:09:46	続いて141ページをお願いいたします。
0:09:50	ここでは水位時刻歴は系の分析の比較対象ケースを整理したページになっております。
0:09:57	あと先ほども説明した通り波源の入れ替わりが発生したケースについては、生のデイリーのケースになりますのでこの水位が上昇する理由について、対時刻歴は系による分析を行います。
0:10:10	この時刻歴は形の比較では、地形モデルと評価項目ごとに結果を取りまとめていきます。
0:10:17	例えばなんですが、左側の表でいきますと、健全地形モデルについて、評価項目の3号炉取水口上昇側、12号の取水口上昇側放水高とそれぞれ表で掲載してございます。
0:10:30	この健全地形モデルの3号炉取水口上昇側、
0:10:34	これを一つのパッケージとして、例えば142ページで説明していくといったような流れにしております。
0:10:42	また、K a k e h iの比較については地震に伴う津波と陸上地すべり買わしら、組み合わせの同一波動場の三つの項目について整理しております。
0:10:53	また地震に伴う津波の内訳としては、目的であります7-Dのケースとそれ以外のケースというところで参考として、
0:11:02	遠い合計四つのケース、掲載してございます。
0:11:05	とまた組み合わせの同一波動場のケースについては、目的になりますのでいいに関連するケースと、それ以外のケースを参考で掲載してございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:17	ところでパッケージしたものが合計六つありましてそのうち 1 例だけ説明させていただきます。1 例として、ページ飛びまし 144 ページ、お願いします。
0:11:29	ここでは防波堤の損傷を考慮した地形モデル①の 3 号炉取水口上昇側を例に説明させていただきます。
0:11:38	こちらは計並べておりまして、一番上段が地震に伴う津波、中段が陸上地すべりのかわしら、下段が組み合わせのドイツは土場のハケを並べております。
0:11:49	このうち、左側のものが 0 分から 180 分の、
0:11:54	横軸に着目して整理したものをこれは拡大したものが右側に並べておりまして、あと地震発生後の 10 分から 40 分で結果を整理してございます。
0:12:06	まず上段の地震に伴う津波のところから説明させていただきます。
0:12:11	また、表の一番右側に波源の特徴を掲載してございまして、
0:12:16	当泊発電所の特徴として断層パターンの違いによって、地震に伴う津波の位相が大きく異なっております。
0:12:24	とまた陸上地すべりのピーク 19.4 分から、組み合わせの時間範囲の T s から T s T D の範囲をずらした時刻の範囲において、
0:12:34	7-D のケースの第 2 はのピークが発生しております。
0:12:39	尾辻中断陸上地すべりの特徴ですが、衛藤。
0:12:43	泊発電所の特徴としては、地震以外の要因に伴う津波としては、6.98 メーターと津波の整理が大きいという特徴がございます。
0:12:53	と下段組み合わせの評価の特徴ですが、
0:12:57	なのでいいの。第 2 はのピークにおいて水位が最大になるという特徴がございます。
0:13:03	とまた波源の入れ替わりの理由について掲載してございまして、
0:13:07	陸上地すべり川白の水位が大きいため、生のデイリーのケースでは、組み合わせによる水位の上昇分は大きいです。
0:13:15	また 6-D 南 20 の参考とし、掲載したケースについては、上記の波源と比較して組み合わせによる C の上昇分が小さいというところから、この結果としては元の入れ替わりが発生したと考えております。
0:13:29	また、スライドの一番下段に結論を書いておりまして、
0:13:34	組み合わせ時間範囲 T s から T s あす T D の範囲で組み合わせた場合に、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:39	地震に伴う津波の第2はピークと川白のピークが重なることで、生の出入りの水位が上昇するというメカニズムになってございます。
0:13:49	続いて145ページをお願いいたします。
0:13:53	こちら表は四つ書いておりまして、左側が7-Dに関するケースと右側が6のデイリー南20に関するケースを参考として掲載してございます。
0:14:05	また、地震に伴う津波と組み合わせの結果について分けて掲載してございます。
0:14:13	藤元談テキストボックスの記載ですが、6-D南20ケース⑤においては、組み合わせによる、
0:14:22	水位の上昇分、
0:14:23	だけ小さいですが、7-Dでは、組み合わせによる水位の上昇分が大きいというところがわかります。
0:14:30	具体的には、
0:14:32	東御右側の、
0:14:34	緑色のケースで言いますと地震に伴う津波が9.29メートルに対して組み合わせの評価の同一波動場のほうの黄色ハッチングを見ますと10.36メートル。
0:14:45	というところで、約1メートル程度の上昇分になっております。
0:14:49	一方、左側の7のdのケースについては地震に伴う津波が6.75メートル。
0:14:55	組み合わせの同一波動場の最大ケースの黄色ハッチングのケースを見ますと11.82メートルというところで約5メートル程度お水が上昇しております。
0:15:06	また、テキストボックス下段の方の神経足し合わせと同一波動場の関係につきましては、組み合わせによる水位の上昇分が大きい7-Dのケースでは、
0:15:17	線形足し合わせの最大ケースと同一波動場の最大ケースの組み合わせの時間差が概ね同じであるというところを確認いたしました。
0:15:27	こちら左下の、
0:15:28	青色の水色の表のところの110秒と127秒が概ね同じというふうに考えております。
0:15:39	同様な流れで他の評価項目地形モデルについて整理しておりまして、
0:15:44	154ページにまとめを掲載してございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:15:52	と上段の目的については、無繰り返しになりますが波源の入れ替わりが発生したケースについてはなのでいになりますので、そのケースの水位が上昇する理由について分析いたしました。
0:16:04	またその結果は、下側のテキストボックスに書いておりました、泊発電所の特徴として地震に伴う津波では、断層パターンの違いによって位相が大きく異なります。
0:16:15	とかわしらについてはじじい以外の要因伴う津波としては水位が大きいという特徴があります。
0:16:22	と波源のパラメータによる傾向の違いというところでは、7-Dのケースでは、かわしら、
0:16:29	のピークから組み合わせの時間範囲をずらした範囲において第2はのピークが発生し、
0:16:34	地震に伴う津波の第2はのピークと川白のピークが重なることで水位が上昇するというメカニズムになります。
0:16:42	江本波源の入れ替わりの理由については、川白の水位が大きいため、7-Dのケースでは組み合わせによる水位の上昇分が大きいです。
0:16:51	これ以外のケースでは、組み合わせによる水位の上昇分が小さいため波源の入れ替わりが発生いたしました。
0:16:58	と線形足し合わすと同一波動場の関係ですが、
0:17:01	水位の上昇分が大きい7-Dのケースでは、線形足し合わせと同一波動場の組み合わせの時間差が同じもしくは概ね同じであるというところを確認いたしました。
0:17:14	続いて156ページをお願いいたします。
0:17:18	ここでは水位時刻歴は系の分析のうち、地形モデルによる傾向の違いについてこれ以降分析しております。
0:17:27	東條檀のテキストボックスの目的書いておりましたこれまで同様生のDの水位が上昇する理由について分析してお聞きます。
0:17:35	と掲載しているケースについては157ページをお願いいたします。
0:17:41	こちらは系がみえっと一六つ並んでおりました、上段から3号炉取水口前面、中段12号の取水口の前面、下段が放水工の前面、
0:17:53	当地点を分けては形を掲載しております。
0:17:56	田畑は計のレンジについては先ほどの説明と同様でして、
0:18:02	まず、取水口の評価につきましては、
0:18:06	江藤、すいません凡例判例のところから説明させていただきますと、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:11	黒線が健全地形モデルの結果、赤線が防波堤の損傷を考慮した地形モデル①の結果を掲載しております。
0:18:20	表の右側に特徴書いておりました、取水口の特徴としては、健全地形モデルでは防波堤により取水口付近へ向かう流れが阻害されるため、
0:18:30	その影響によって防波堤の損傷を考慮した地形モデル①よりも、最大照査値よりもあったということが考えられます。
0:18:41	詳細については後段の水位分布の分析の方で説明させていただきます。こちら3号取水口と12号取水口については同じ特徴を持っていると考えております。
0:18:50	下段の方遂行については、健全地形モデル、防波堤の損傷を考慮した地形モデル①において、概ね同程度の最大水位であると考えております。
0:19:00	放水工については防波堤の外側に位置するため、防波堤の損傷状態の違いにかかわらず、水位上昇のメカニズムは同じであり、
0:19:09	地形モデルの違いによる影響が小さいというふうに考えております。
0:19:13	こちら詳細については水位分布の分析のほうで説明させていただきます。
0:19:19	続いて158ページをお願いいたします。
0:19:23	ここでは水位分布の分析の比較対象ケースをそれぞれ掲載しております。
0:19:29	ここも繰り返しになりますか、7-Dの上昇する理由について分析していきます。そのため、6-D南20の形成については、参考として掲載させていただきます。
0:19:44	159ページをお願いいたします。
0:19:48	東名のDに関する分析ですが、衛藤。
0:19:53	左側に健全地形モデルの最大水位上昇量分布、右側に防波堤の損傷を考慮した地形モデル①の最大水位上昇量分布を掲載しております。
0:20:04	引き出し線でそれぞれ数字書いておりましたこの地点が7-Dの波源ですと、南防波堤基部で最大とば取水口付近で最大と。
0:20:13	この位置が違うというふうに考えております。
0:20:17	その理由については次のページ以降のスナップショットで説明させていただきます。
0:20:22	160ページをお願いいたします。
0:20:27	藤。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:29	こちら上段に地震に伴う津波の単独のスナップショット、下段に組み合わせにおけるスナップショットを掲載しております。
0:20:37	ところで地震に伴う津波の上段の方に着目していた、いただきますと、
0:20:43	まず、西から東の方に地震に伴う津波が伝播して、岩内側の方で反射が発生いたします。
0:20:50	その反射の第2は、と表現しているものが、ともに外させていただきます。
0:20:55	しゃんしゃんと第2は、表現してることとか、そういうのが約21分程度のところで発生して、
0:21:01	江藤東から西の方に津波が伝播してっております。と下段の組み合わせの評価のところでは、上段と下段の差分のところは川白による成分と考えておりまして、
0:21:11	川白による成分が到達するのが泊発電所に到達するのが21分程度と考えております。
0:21:19	そのためその時刻に拡大したものが次のページ。
0:21:23	で整理しております。
0:21:26	こちら泊発電所に拡大して整理したものになっておりまして、上段が地震に伴う津波、下段が組み合わせというところで、
0:21:35	整理しております。
0:21:38	こちら下段の方見ていただくと、地震に伴う津波の第2はが、
0:21:43	東から西の方へ伝播してしておりますそれに対して川白については西から東の方に伝播してしております。
0:21:51	ここで20分30秒の時刻に着目しますと、北防波堤の先端付近で、これらは形が重なっております。
0:22:00	その後、21分のところでは、陸上地すべり川白の伝播の方向に、
0:22:06	庁舎積む頭の成分が伝播して行って、その後取水口付近で水位が最大になると、というような水位上昇のメカニズムになっております。
0:22:16	こちら防波堤なしの結果でして、
0:22:20	163ページの方をお願いいたします。
0:22:24	こちら防波堤がある、健全地形モデルで整理したものでして、
0:22:29	この下段の組み合わせの評価を見ますと、北防波堤付近で津波が重なるというところまでは、防波堤ありなしで同様なメカニズムになっております。
0:22:38	その後、21分のところ、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:41	防波堤により取水口父兄へ向かう流れが阻害されて、南防波堤に沿った方向に津波が伝播していきます。
0:22:48	その結果南防波堤基部のところで、健全地形モデルでは水位が最大になるというようなメカニズムになります。
0:22:57	続いて 165 ページをお願いします。
0:23:01	こちらは参考という扱いで、6-D 南 20 のケースについて整理しております。
0:23:08	こちら左側健全地形右側防波堤の損傷を考慮した地形モデル①で掲載しております、
0:23:14	こちら引き出しているところに最大水位の位置を変えておりまして、どちらとも南端部付近で水位が最大になっておりまして値についても同程度と考えております。
0:23:25	続いて 166 ページをお願いします。
0:23:30	上段地震に伴う津波の伝播状況書いておりまして、こちら先ほどの 7-D 移動同じような水の伝播の状況となっております。
0:23:40	一方津波が泊発電所に到達する時刻は、この泊ですと 22 分頃というところで、到達する時刻が先ほどのケースと異なっております。
0:23:51	続いて 167 ページをお願いいたします。
0:23:56	そちらは、
0:23:58	川白の位置については先ほどと同様でして、重なる位置が、
0:24:03	これらのケースですと、南端部の付近で重なります。
0:24:08	その結果南端部付近のところで、水が最大になると、というようなメカニズムになります。
0:24:15	続いて 169 ページをお願いします。
0:24:20	こちらは防波堤がない場合の分析結果になっておりまして、メカニズムについては、健全地形モデルと防波堤損傷を考慮した地形モデル①で同じような性状者のメカニズムになっております。
0:24:33	結論は 170 ページをお願いいたします。
0:24:38	下段のところに結論を書いておりまして、
0:24:41	衛藤。
0:24:44	7 の D のは下につきましては、北防波堤のセンター付近において、
0:24:49	地震に伴う津波の第 2 版のピークと川白のピークが重なり、その時点から陸上地すべりの進行方向に位置する位置として、取水口父兄もしくは南防波堤基部での水位が最大となります。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:03	統計前地形モデルでは防波堤の存在によって取水口付近へ向かう流れが阻害されるため、南防波堤基部における水位が最大となり、その影響により、防波堤の損傷を考慮していった地形モデル①よりも、健全地形モデルの水位が低くなったと考えております。
0:25:20	討議6のD南20の波源については、南端部付近で地震伴う津波の第2はとかは知らが重なり、
0:25:29	その時点から川白の進行方向にする南端部の位置で溢水が最大になります。
0:25:35	この南端部については防波堤の外側に位置するため、防波堤の損傷状態の有無にかかわらず、
0:25:42	水位上昇のメカニズムは同じであり地形モデルによる影響は小さいと考えております。
0:25:48	全体のまとめが172ページになります。
0:25:54	こちらの全体のまとめについては各所で説明したって、説明しておりますので割愛します。173ページ。
0:26:02	のところで、
0:26:04	組み合わせ評価における泊発電所に影響の大きい%元地形モデルの特徴について整理しております。
0:26:11	組み合わせ評価として、敷地に影響の大きいと波源の特徴については、なので地形モデルについては防波堤の損傷を考慮した地形モデルの①であるとと考えております。
0:26:23	ここで注釈で書いてありますが、放水工の上昇側については健全地形モデルの水位のほうが値としては大きくなるものの、以下の理由によって、敷地に対して大きな影響を及ぼす地形モデルとしては防波堤の損傷を考慮した地形モデル①と考えております。
0:26:40	他方遂行については防波堤の外側に位置するため、防波堤の損傷状態の違いにかかわらず、水位上昇のメカニズムは同じであり地形モデルの違いによる影響は小さいと考えております。
0:26:52	また、組み合わせ評価における7のデイリーについては、各評価項目の水位時刻歴はKのピークが発生する時刻は概ね同じである特徴がありますので、
0:27:04	これらの各評価項目ごとの水位上昇のメカニズムは同じであるとと考えております。
0:27:09	こちらは右下の、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:11	は計のところで計算しております、
0:27:15	あと上段に膨張で全面上昇の最大遡上点のグラフ。
0:27:19	下側に主訴手法遂行のグラフを書いております。
0:27:23	これが発生するピークが概ね同じ時刻であるというところがあるかと思えます。
0:27:30	次 174 ページ以降については、
0:27:34	組み合わせの時間差に対して下回る時間が急増する理由について整理しておりますこちらについては以前ヒアリングで説明した内容なので、今回の説明では割愛します。
0:27:48	178179 では、補足資料というところで、川白の結果と地震に伴う津波の最大ケースの詳細について、資料化しております。
0:27:59	ご説明以上とさせていただきます。
0:28:06	はい規制庁タニです。
0:28:07	それではちょっと今の説明の確認に入っていきたいんですけど、
0:28:12	まず一番最初にですね私の資料構成の方からなんですけれども、次回会合で、説明することとしては今、
0:28:23	青木さんから説明いただいたような内容になると思うんですけども、この資料って、何か
0:28:31	組み合わせの一式の資料が今ついてて、
0:28:34	なおかつ何ていうんですかね 2 ページ 3 ページ本日の説明内容みたいな、今回の説明範囲、
0:28:42	何か、
0:28:45	次回の会合っていうのは、
0:28:48	さっき説明したようなコメントの回答に絞ったことかと思うので、若干ですね資料なんかこう説明しない内容がすごくついてるし、
0:29:00	何かこの今回の説明範囲っていうのも、何か違うんじゃないのかな、或いは、5 ページの、本日の説明概要で、時間ピッチのこともこう何か説明しますみたいなことなってるんですけども、
0:29:14	何かそれも、特に今回の中間報告的なものからは、
0:29:19	必要ないんじゃないのかなとまああえずつまり今説明したん、9 ページの内容、この指摘事項 3 ナンバー 31 っていうのに絞った資料にされた方がいいんじゃないのかな。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:30	或いはこう一色でつけるんだったら、今回の説明資料、範囲はここ、ここなんですよってというのがちゃんとわかるような資料にさせていただきたいなど。
0:29:39	いうふうに考えてますこれちょっとお任せしますけど、介護での議論の内容が何なのかっていうのははっきりとしていただきたいという、リクエストですので、
0:29:50	その辺は大丈夫ですよ。ちょっともう資料も移さなくていいですよ。
0:29:56	画面で、
0:29:58	皆さん移ったほうがいいですよ。
0:30:06	どうですかね資料の構成っていうのは、何、何か今のこの全体意識にしているっていうのは何か理由があるんですか。
0:30:14	うん。
0:30:15	北海道電力の奥寺でございます一色にしている理由といたしましては、最終的にはパッケージとしてこういうまとめ資料的なものになっていくという中で、
0:30:27	今やってるところがどういう部分なのかそういうマッピングとかを明示的にしたかったので、今までこういう説明資料にしておりました。
0:30:37	そういう理由ですけれども、説明している内容は、中間報告としてはおっしゃる通り5-5、
0:30:45	今青木が説明したところでございます。
0:30:49	とりあえず我々の今、こういう構成にしている考え方については以上でございます。
0:30:56	はい。谷ですけど、介護いつやるかっていうタイミングもあると思って、その介護までに、何かこう、
0:31:05	し説明範囲がこれだっていうのがわかりやすいようにしていただけたらと思います。僕の方としては無駄にこのなんか厚い資料を
0:31:13	にする必要はないなというふうに思っていますけれどもそのへんお任せします。
0:31:18	で、次の話なんですけれども、ちょっと資料全体の話を今聞いて、こう思っていることとしてはですね、
0:31:28	こういった分析、分析というか、何か資料作りましたというのは、終わっか、説明はわかったんですけども、
0:31:37	何かこれ、
0:31:39	結局この、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:42	分析の目的っていうのに、
0:31:45	あったような、
0:31:48	最終的な考察になっているかという、何だかちょっとただいまところやりましたよっていうような、
0:31:56	こういう
0:31:57	絵を作りましたよっていうようなものにしかなくていいような気がしてるんですけどこれは、
0:32:02	何でなんすかねは現世波源の選定は、今のままで大丈夫。今のままで十分なんだとか、そういう北海道電力としての何ていうんすかね。妥当性に関しての意思みたいなのは今回の主に入っていないということなんですかね。
0:32:19	その中間報告だから、まだそこまで入れていないのかとか、
0:32:24	ちょっとこのさ、最後この資料で何を、今んところ言いたいのかっていうのを確認させてください。
0:32:43	当北海道電力のアオキですと回答ですが今回の資料構成としては中間報告という位置付けがあると考えております。なので妥当性を説明するにあたっては最終報告の、
0:32:56	段階になると考えておりますので今回の資料では、中間報告という位置付けでありますので、その目的に対して妥当性があるというところまで結論を言及しているものではないと。
0:33:08	ところが回答になります。以上です。はい谷です。だから今のここまでのことしか書かれてないんだっていうのは、お考えはわかりました。ただですね、多分それだけでは、その間がいいとしても、
0:33:22	今こんなステータスなんですとか、今後はこんな感じでやっていこうと思うんですとか、そういった議論が多分会合で必要なんだと思うんですよ。
0:33:33	今のところはここまでです。今後はどうするんですかっていう話でそれが多分今の資料では、
0:33:40	誰も
0:33:42	これ見てもわからなくて、
0:33:44	何か
0:33:47	1枚でいいので、
0:33:49	今はこう考えて、ここまでなんだとか、今後こう、それはこう細かい話はできないのかもしれないですけどね。会合も不議論を踏まえて、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:33:59	やっていくのかもしれないのですんで、細かい話できないのかもしれない。今の北海道電力の
0:34:07	中間報告をするにあたって全体としてはこう考えてるんだと、その辺が何か見えるようなものを、何か作っていただいた方が、会合での議論はしやすいのかなと思いますので、
0:34:18	その辺考えてください。
0:34:23	ことで、ここ小寺でございます。
0:34:26	今、中間報告ということで、加古川の
0:34:32	古刹等も必要で全体としてこう考えてますっていうのは、
0:34:35	ある程度我々考えているところがあるので、
0:34:41	今、こういう状況というのはまさに今回、上昇側についてお示したものの。
0:34:46	今後、
0:34:47	おそらくこうやっていきたいっていうようなところどこまで書くかですけどもそう言った、我々がどう説明していこうかと考えているというものを少しわかるように、
0:34:58	簡単な認識が皆でわかるようなものを取り付けていきたいと思います。以上です。
0:35:07	はい規制庁タニです。そうですねだから今のこの分析をやった時点で北海道電力としては、もうちょっとその波源選定を、
0:35:16	何か、
0:35:17	やり直す必要があるような懸念を持っているのかとか、そういった
0:35:24	んなんていうんですかね、何か今、
0:35:27	言われたことを何かやってみましたっていうような感じにも見えなくもないので、
0:35:33	は、あくまで北海道電力どうしたいって考えてるのかっていうのがわかるようにしていただけたらというのが、私の趣旨ですんで、今のままだったら、本当にこの
0:35:44	会合で我々が問題意識を持って指摘したことが伝わってんのかなっていうようなところも、
0:35:51	ただ結果だけ並べてるんだったら、そういう見方にもなってしまうと思うので、何か火ちょっとついそれだけは追加してもらったらいいかと思いますのでお願いします。
0:36:06	何か全体的な話として規制庁から側から何かありますか。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:11	続けていいですか。
0:36:27	規制庁の名倉です。
0:36:31	私もちょっとこれ今全体像として、
0:36:34	今回分析した内容が、
0:36:39	それをどういうふうに、さらに考察を深めて、
0:36:43	目的を達成するための、
0:36:47	論理を構築するのか。
0:36:49	というところが少しまだ見えていないなと思っています。
0:36:53	最終的な目的は、
0:36:57	今、いろいろ頭、モデルとか波源とか含めて、いろんなこの検討ケースが多い中、
0:37:07	その選定が基準津波の波源としての選定のプロセスとして、波源がちゃんと影響が大きいものを組み合わせの結果も踏まえて網羅されているかどうか。
0:37:22	これが最終的な目的、そのための考察として何が必要なのか。
0:37:29	というところの、逆のたどり方をしたときに、これ今やっているプロセスは一体、その目的達成までのプロセスのうちどの部分なのか。
0:37:41	私は見た限りはまだ、
0:37:44	いや三分の14分の1ぐらいのところまでなんじゃないかなというふうにちょっと見ている、
0:37:50	これに対して、何がし何をこう考察として加えないと。
0:37:56	下限の選定の網羅性というか、これで10十分ですというところは、どう説明するのか。
0:38:04	ここはちょっと正直見えてこない。
0:38:08	というのがこれの富田土岐の所管です。
0:38:12	これについて少し、北海道電力としての考えとして、これ以外にどういうふうな考察を今後考えているのか。
0:38:22	どういうふうに突き詰めていった結果として、波源選定のなんか妥当性、十分性というかそういったものを説明を達成するのか。
0:38:33	というところのロードマップというかそういうものをちょっと示していただきたいなと。これが、
0:38:40	今あるものとして示していただくとしてもしないのであればもうそれは会合で、何ていうかそういうことも含めて指摘していかなくちゃいけないというふうに考えております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:50	そういう意味で、今回は月末ぐらいにちょっと、速やかに会合をやるぐらいに考えています。ですからそれを、その範疇をはみ出るぐらい。
0:39:02	もうあんまりこう、資料用意できないということであればもうその状況で会合をやりたいと思います。
0:39:11	ですからちょっと可能な範囲で、ロードマップというか、目的を達成するためにどういうふうな手段、
0:39:18	としての考察、分析を考えているのか、そこら辺をちょっと、もし今あるのであればそういうものを出していただきたいということでお願いします。以上です。
0:39:37	はい続きしますね。その辺考えてください。こちらの方の考えていうのは、そういうことなので、
0:39:43	それで、内容について、内容に入っていきたいと思います。
0:39:51	ちょっと確認なんですけれども、
0:39:54	分析しましたよということ、この141ページの内容私確認したいんですけれども、
0:40:01	この何か評価点を、この3号炉取水口、12号炉取水口放水高っているのを、まずここを見ますよって話を、
0:40:11	していると思うんですけれども、これんな、私たちからすると膨張で全面っていうのは、これ大事な話だと思ってるんですけど。
0:40:21	ここを外してるのは、何か理由があるんですけど、さっき説明してるんだったら、すいません私聞き漏らしてるかもしれないんですけど、なんでこの3号炉12号炉放水高っているのを、
0:40:34	見るようにしたんですか。
0:40:38	北海道電力の青木です。
0:40:40	と防潮帝都手法遂行について大きな違いがあると思っておりますその違いというのが評価範囲の大きさが違うと考えております。
0:40:51	例えば取放水高であれば、取水口の前だとかで限定した範囲なので、薬時刻歴は系による分析が有効であるというふうに考えております。
0:41:01	一方防潮てにつきましては、導水分布の分析の方で、詳細説明しましたが、大きな範囲を持ったところで分析を詳細説明しました。
0:41:12	江藤大木というところを考えていて、その結果を踏まえると考えていて、
0:41:18	範囲を限定した分析を行った上で、後半の膨張停電の方、その分、水位分布に関する分析を行うってところは、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:28	説明としてはわかりやすいのかなというところで、まず清時刻歴派遣の分析っていうところで、これらの手法遂行に着目して整理した結果を、
0:41:38	掲載しております。現状資料上 140 ページの下段のところ、
0:41:45	根井衛藤。
0:41:47	炊事後期失礼時刻歴派遣の分析では、
0:41:50	江藤小谷野手法遂行を対象とする規制分布で膨張て全面を対象とするとだけ書いておまして、この理由づけがないと、というようなところかと思imasuのでその点に関して、
0:42:02	ちょっと記載の適正化を図りたいと考えております。以上です。
0:42:07	はい。
0:42:08	考えわかりましたあれですね膨張て全面ってというのが
0:42:12	言ってみたらこういう計算する部分では応用問題みたいな感じで、まずはちゃんとわかりやすいところで分析しようと、そういった背景があるってということかと理解しました。
0:42:23	そういうことだったら書いてもらったらいと思います。
0:42:27	ですねえ。
0:42:30	そっから、141 ページ以降分析をしましてということなんですけれども、
0:42:38	ちょっと、ちょっとですね、
0:42:41	データは細かく見ていきますというか、
0:42:46	やっぱり 142 ページのような形がないと、これまで、もう全くこんな、こんなのが見えてなかったことがようやく見えてきたかなというふうには思いました。
0:42:58	で、それを踏まえて、
0:43:01	何か 104、145 ページか。
0:43:05	波源の入れ替わりの理由っていうことでこれが何かこの子結果のようになっていると思うんですけども、
0:43:12	これねこれ、
0:43:15	派遣の入れ替わりの理由が、
0:43:17	ただ単に川白がの上昇分が大きかったのと小さかったという、そんなことはもう、
0:43:25	これまでの資料でわかってるんですよ。
0:43:30	水位の上昇。
0:43:32	部分が多いものが、小さいものを買ってしまったってそれは、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:43:38	んだからそれが何なのかっていうのが、それがなぜこういうことになってるのかってそこが、
0:43:44	説明していただきたかったことで、
0:43:47	あって、何か入れ替わりの理由っていう、
0:43:50	ことになっていないと思ってて、
0:43:53	ちょっとこれ、
0:43:55	今言ってもしょうがないので、何か今後、
0:44:00	なぜ、こっちの方が大きくなるのかっていうようなそういう観点でまとめていただいたらなど。
0:44:06	思いました。それはいいですね。今のこれ入れ替わりの理由ってこれじゃちょっと。
0:44:13	全然説明になってないですよっていう話なんすけど。
0:44:19	北海道電力の青木です。藤。
0:44:23	スライドの 154 ページお願いいたします。
0:44:29	ちょっと資料の記載の仕方が悪かったのかなと思うんですが、ここでは、
0:44:36	泊発電所の特徴として地震に伴う津波で段差パターンの違いによって磯が異なる。
0:44:42	川白の水位が大きいという特徴がございます。
0:44:46	また波源のパラメータによる傾向の違いっていうところで、
0:44:51	簡単に言うと、7 のデータと第 2 はと川白のピークが重なって水位が上昇している。
0:44:58	っていうところ、ここも含めては下の入れ替わりの理由になっていて、その特徴と波源のパラメータの傾向の違い。
0:45:06	を含めて、この排煙の入れ替わりの理由になってるっていうところを、資料上わかるような、
0:45:13	に記載の適正化を図りたいと考えております以上です。
0:45:23	規制庁谷です。ちょっと記載の適正化っていう、今 154 ページの話聞いても、何かちょっと記載の適正化っていう部分ではないかなと思ってまして。
0:45:36	この辺はちょっと会合での議論になるのかなと思いますので、
0:45:42	ちょっと今は、理由、理由っていう部分がですね、
0:45:47	もうもう少しいるんだらうなっていうのを持っているっていうことだけお伝えしておきます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:53	特にこれ会合に向けて、直してくださいっていうつもりはありません。今のこの材料でお話をしたいと思います。
0:46:01	それで、
0:46:05	どんどん確認していきますね。
0:46:09	藤。
0:46:13	どこだ。
0:46:15	143 ページ 142 と 143 ページを見ると、まさにこういうのをちょっと分析、考察して欲しいなって思ったのが、
0:46:26	142 ページでこの
0:46:28	緑の波源のピークっていうのは、今御社が考えてる P T、 T S、
0:46:38	この
0:46:39	地すべりと重なる範囲に、結構高いピークが認められてて、でもこれを一体計算したり入れかわるんだよってという話をし、してるんですよ。
0:46:51	で、これって何か 143 ページ見ると、
0:46:55	線形足し合わせで 103、右側ですねケース 1 の 136 秒がピークになっているのに、全くこのいって、同一波動場では全く違う結果になって、
0:47:07	全然違うところが足し合わせると、
0:47:11	ピークになっていると。なおかつ降水の子高さも全然工費、何て言うんすかね線形で、とても高いところが、同一波動場ではすごく、むしろすごく低いことになっていると。
0:47:24	この辺のこの、
0:47:27	原因というか考察というかって何かあるんですか、何か考えられてますか。
0:47:46	少々お待ちください。
0:48:09	と北海道電力の青木です。
0:48:12	143 ページの右下の 6 の d のケースに関する確認事項と認識しております。
0:48:20	ここ線形足し合わせの方だと 11。
0:48:24	組み合わせ時間差 136 秒だと 11.58 で、同一波動場だと 7.76 でこの値が大きく違うっていうところを分析しているのかというところですが、
0:48:35	現時点では明確な答えは持ってないというところが正直なところになります。ですから一方当社としての考えは、同一波動場の方が、
0:48:45	同検討としては、
0:48:47	衛藤。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:48	重要性が高い結果になると考えておりましたこの同一波動場の結果の方で、数字が大きくなってないっていうのは事実としてありますので、ここについては問題がないというふうに考えております。以上です。
0:49:07	既設のナグラです。
0:49:10	問題ないって今言ったんだけどこれがちょっと重要じゃないかなって思っていて、
0:49:16	単独足し合わせでいく等、線形足し合わせでいくと。
0:49:23	このケース①に関しては、単独は形とか見ると、やはり後ろの方に寄ったほうが影響が大きいだろうという推定ではあったんだけど、計算もそのように、
0:49:34	足し合わせの結果になっているんだけどそれが同一波動場でもあるケース①が、前半の方に、これ全く違う組み合わせの時間差の方に寄ってしまっているっていうのは、
0:49:47	これは緑の地震に伴う津波のは形を見ると、見えてくるんだけど第一波と第2は
0:49:57	この絵と時間間隔が少しこう、
0:50:02	7-Dのケース③とかのケースとはちょっと違って、第一波がこのピークの組み合わせ時間範囲に近いところに来ているので、
0:50:13	これもしかしたら
0:50:15	陸上地すべりのピーク時間が、なるべく早い時間体に近い方が、実は第一波の方と重ね合わせになってしまって、
0:50:26	その結果として、ピークは、第一波よりも、第2班の方が実は大きいので第一波の組み合わせでは小さくなってしまっていて、相対的に、
0:50:38	だから、基本的に入れ替わりが生じる。
0:50:44	だから第一波と第2はくた足し合わせの時ところが、もう全く変わってしまっているっていうことなんじゃないですかねケース1については、
0:50:53	だからそういうふうなピークの、
0:50:58	何ていうかな、組み合わせ時間範囲と、実際の波源の単独のところのピークが、第1第一波第2版のピークの関係がどこに来ているのか。
0:51:11	によってこの入れ替わりが生じるという現象が生じている可能性があるということを示唆してるように見えるんですけど、何かそういったところの考察が必要なんじゃないかな、そういう意味で私、
0:51:21	この35秒、ケース①で35秒の波をちょっと見てみたかったってのはそういうところにちょっとあるんですけどね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:51:29	今は、142 ページのところは、ケース①については、線形足し合わせの最大の 136 秒ぐらい。
0:51:40	これを表示しているので、そういう意味で組み合わせ、同一波動場の結果は 136 秒のところ、
0:51:48	を表示してるんだけどこれは実際は、
0:51:51	最大が発生してる時刻ではなくて、35 秒のところを表示するとどうなってるのかなっていうのはちょっと見、見た方がいいかもしれないですね。
0:52:01	そういう意味でちょっと、
0:52:03	重要ではないと言ったんだけど逆にそこに入れ替わりの重要性というか入れ替わりの原因の考察として重要なものが潜んでいるんじゃないかっていうちょっとすいませんそういう問題意識を持っています。
0:52:21	北海道電力の青木です。
0:52:23	藤参事、先ほどのケースで言いますと、
0:52:28	線形足し合わせで数字が大きい 136 秒、あと同一波動場として数字が大きい 35 秒っていうところの間葉系を見てもないことには分析とか、
0:52:38	考察とかできないと思いますのでは系について分析することを検討したいと考えております。その際に、線形足し合わせだと大きいけれど、ドイツはババと小さいとか、
0:52:50	そういったところ見えてくるかと思っておりますので、線形足し合わせとドイツは Lower 二つのは形での、江藤プレイヤーの時間についての分析考察を検討していきたいと考えております。以上です。
0:53:04	規制庁の名倉です。
0:53:07	今すいません少しお話したことって、
0:53:11	実は、
0:53:12	今回の日本海東縁部のその波源、
0:53:18	の波源によっては、第 1、第 2 はの関係がちょっと地少し異なるも、傾向になるケースもちょっとあるように感じていて、
0:53:28	そういうふうな第 1 は第 2 版のちょうどこのはざまに、
0:53:32	陸上地すべりが来ると。
0:53:35	だから、それがどういうふうな、方に重ね合わせで影響するのかというところが少し第 1、第 2 はっていう、
0:53:47	その関係性、それからあと、
0:53:50	実は周期特性として、陸上地すべりの周期特性と重なりやすい。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:53:55	その波源の周期特性って第一波第2周期特性って何なのかとか、そういうところがどうもかなり影響してるんじゃないかなというふうにちょっと私自身はちょっと見ているんですけど。
0:54:06	ちょっとそういった観点も含めて、今後分析を、
0:54:10	していただくのかなと思ってますけどこちら辺はちょっとまだ何も言えませんので、会合等で今後議論していくことになるのかなというふうにちょっと思っています。以上です。
0:54:26	規制庁谷です。まだちょっと関連してなんですけど、これって何か同じようなことが、147ページでも、
0:54:35	起きてて、どうやらこのケース①っていう、
0:54:38	ので、何かこういったことが起きている。
0:54:42	だから、あんまりこうこの、例えばケース1に関しては線形足し合わせで何か決めていくっていうのが、何かそぐわないというか、
0:54:52	都府県線形多少是正で大きくなるものは全然、
0:54:56	大きくなんないんだっていうんなんで、うん。
0:54:58	ケース1だからなのか、或いは、これ、普通のサイトだったらすいません。
0:55:05	はい。
0:55:08	すいません。ちょっと河成が乱れて行って、あ、そうですか。画面固まっていますかね。聞こえますよ。
0:55:20	はい、聞こえてます。はい。
0:55:23	今機構を聞こえてます。はい。はい。申し訳ないです。聞き取り聞き取りづらかったです。うん。全般的にちょっと、何て言うん仮設電波が悪いみたいな感じを受けますね。
0:55:37	で、続けますね。聞こえなかった言ってくださいね。
0:55:42	これと同じようなケースが147ページのケース①っていうので出てます。
0:55:48	で、これって泊サイトでは、泊サイト独自の問題なのかとか、要するに線形足し合わせの結果と同一波動場での件、検討結果がすごく全然違うような
0:56:02	むしろこう逆転するような現象でこれ、これがケース①、
0:56:07	2の身を切るようなことなのかとかそういったことをです、やっぱり何か考察していただかないと、
0:56:16	なかなかこう、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:19	ちゃんとピークのところを重ねたほうがいいんじゃないのかとか、何か次の議論になかなか行きにくいところもあって、まあまあ、
0:56:28	状況っていうのは見せていただけたらなと思いますそれ今後の話ですね、よろしくお願いします。
0:56:50	あとだから、つまりこういうことを言っていくと、例えば 144 ページで、
0:56:57	144 ページでこの 6 E D の小緑の線、
0:57:03	地震に伴う津波の緑の線っていうのは、
0:57:06	24 分ぐらいにピークが来てますよね。
0:57:11	これ例えば、
0:57:15	例えばこの緑の線と、
0:57:18	今、北海道電力の主張では、20 分ぐらいから、
0:57:25	この T T S から D I S S + T D の範囲ってここなんだって言ってるんですが、例えば、例えばこれがこうぐっとうこう後に来たとしても、
0:57:35	重ねたとしても、
0:57:37	必ずしもそこが高くなる。
0:57:40	かわからないっていうことなんですかねこの。
0:57:43	線形足し合わせは高くなるんだけど同一波動場で、
0:57:47	やったら、
0:57:48	全然読めないってそんな感じなんですか。これはもうただ、ただ単に感覚的な話ですけど。
0:58:17	僕も少しお待ちください。
0:58:24	北海道電力の奥寺でございます。
0:58:26	今我々が分析等を行っている前提といたしましては、
0:58:34	P S から T s プラス T D と、
0:58:38	こういったものが、ある程度妥当性がある範囲だと。
0:58:43	いうところを前提にして、分析等を行っておりますので今、この範囲の分析しか行っていないということです。
0:58:52	今、状況としては、我々が確認している状況としては以上です。
0:59:00	はい。規制庁谷です。はい状況はわかりました。だからここはここ答えるような、感想みたいなこともちょっと答えにくいってことですね。わかりました。
0:59:21	ちょっと続いての確認なんですけれども、
0:59:25	ちょっとこの話とは違うんだ、多分この

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:59:30	今の派遣の話は大事なので、後で、他の方もコメントあると思うんですけど、
0:59:36	次に移ると 157 ページで、
0:59:42	何て言うんですかねこの地形モデルの違いっていうの、
0:59:49	傾向っていうのは、確かにす、地形モデル位置よりも地形健全モデルの方が水位が低くなっているっていうような、ここの結果は、
1:00:03	そう。そういうことが言えてるんだと思うんですけども、一方で、何て言うんですかね
1:00:10	水位が高い低いと数ではなくって、どう、今こう議論し、議論というか、こう分析しなきゃいけないのが地形モデルの。
1:00:20	によって、
1:00:22	何て言うんですかね重なり合い方が変わるのか、変わらないのかとか、
1:00:28	そっちの話をまず整理した上で、
1:00:32	かわらない、例えば地形モデルが変わればピークが遅れてくるん、こういう場合に遅れてくるとかこういう場合早まるとか、そういう話をした上で、
1:00:43	地形の影響で水位の話をするっていうこうなんか別々で、ちょっと 1 回整理、
1:00:49	した方が、わかりやすいんだと思うんですこれ、地形モデルによってそのピークのタイミングとかって、変わってくるんですかってその辺ちょっと確認したいんですけども。
1:01:13	すみません説問が悪かったんで地形モデルが違うことによって、日本海東縁部のおんじ波源のものでも、そこに到達する時間が、
1:01:24	大分時間がずれてくるものなんでしょうか。
1:01:27	ピークの位置がはい。
1:01:29	お願い。
1:01:31	北海道ではオクデラです。挙手的な話で言いますと地形モデルが異なる。
1:01:38	から、同じ断層モデルで、到達時間が異なるということはないと考えますけれども、取水取水口じゃないです
1:01:50	A のあるないっていうぐらいのレベルの
1:01:54	微視的と言ったらいいんでしょうか。そのありなしによって発電所付近の流れが影響を受けるというところは確認しているところです。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:02:07	このような回答ですけれども、聞かれていることに答えてますでしょうか。
1:02:21	井谷です。えっとね、ちょっと聞き方が、例えば 146 ページで 148 ページを、
1:02:29	比べてもらったらと思うんですけれども、何か
1:02:35	地形モデルが違う場合の、
1:02:39	ピークはは、日本海東縁部のピークの位置は変わらないんですかねその相対位置がこう違う感じがするんですよ
1:02:47	えっと、
1:02:48	重なるタイミングっていうのか。
1:02:51	要するにこのピンク色の破線で書いているところと、より右側のピークの位置が 148 ページ、例えば緑、緑色線、
1:03:02	線と 146 ページの緑色線を比べると大分遅れて、148 ページの方が遅れているとか、そういうことがあって何か重なるタイミングなんか違うようにこう見えたんですけれども、
1:03:14	何か、まずそこのお話を、
1:03:18	重なり方が、は変わらないんだけど、地形で大小が出るんだとか、どっちの話なのかっていうのがわかるように、そこを事実確認したかったんですけど今んところあんまり重なり合わせの、
1:03:32	関係は変わってこないってことなんですかね今の説明。
1:03:38	北海道電力の青木です。
1:03:41	まず 146 ページ 148 ページの比較で言いますとこれ取水口の評価地点にしておりますので、防波堤の内側になります。
1:03:52	防波堤があることによって、ピークの出る時刻が若干変わってくると思ってます。ただ、取水、
1:04:01	防波堤の外側の放水高については地形モデルでピーク出る事故とは変わらないのかなというような評価と考えております。
1:04:10	ご指摘の中でピーク出る時刻どれくらい変わるかっていうところで、
1:04:15	ほんまわかりやすい例でいうと川白のピークの時刻、それぞれ中段で書いておりまして、
1:04:20	健全地形モデルだと、20.7 分のところで河島のピック生きております。
1:04:27	一方防波堤なしの 148 ページの方だと 19.3 というところでも高が防波堤のありなしでピークで時刻が若干変わっているのかなというところを考えております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:04:39	ちょっと地震に伴う津波については、このケース数はちょっと多いので、一概にどれくらい違うかっていうところは、
1:04:48	当資料としては、眉
1:04:53	現段階でちょっと言えないところであります以上です。
1:05:00	規制庁谷です説明わかりました頭のくるタイミングとかも変わってくるんだっていう話だと思うので、何かそういったことが影響してるのかしてないのか或いは、
1:05:10	ただ単に地形モデルが違うと川白のんさ津波がすごく大きいから、
1:05:17	だからこういう入れ替わりが大きくなる、入れ替わりが多くなったりしているのかとか、その何か二つの要素を分けて話してもらったら、
1:05:29	今の説明も少しわかりましたので、そういった観点でもうちょっと見るようにしますので、何か分析っていうのはそういうことがあるのかなというふうには、
1:05:40	思います。これはもうもう会合とかの議論になるのかなと思いますので、この辺にしておきます。
1:06:06	規制庁の名倉です。
1:06:09	気になってることはいろいろタニの方から室指摘をしてたので、
1:06:16	そちらでカバーできてるんですけど、ちょっと事実確認だけさせていただきます。154 ページ。
1:06:23	組み合わせ評価結果に関する分析として結果をまとめているんですけど、
1:06:29	先ほども少し言及がありました通り、あったんですが、
1:06:33	二つ目の四角の一つ目のマル。
1:06:37	泊発電所の特徴で波源の特性に言及してるんですが、
1:06:42	地震に伴う津波のところで、
1:06:46	断層パターンの違いにより位相が大きく異なる。
1:06:49	としているんですけども、
1:06:51	やっぱりこの津波っていうのは、波であるということで、位相特性だけではなくて周期特性、
1:06:59	もあると思うんですけども、この文章からすると、周期特性は異ならないと。
1:07:05	ということでしょうか。その場合、どういう周期特性なのかっていうことは、もうすでに考察されているのでしょうか。
1:07:15	同じように陸上地すべりに関して、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:07:21	実際の周期特性とか、位相特性とかそういったもの特に周期特性ですね、そういったものは分析しているのでしょうか。それからあと、港湾部。
1:07:32	先ほど組み合わせのは形で港湾部の、
1:07:37	地形による違いとして、
1:07:41	健全地形と全損傷 01 の地形パターンを比較をした時に、
1:07:50	入口のところについては同じですと、奥の方に行けば行くほど、これははけが違ってきますということを言われたんですけどこの場合、公安の
1:08:02	増幅特性、
1:08:06	周期特性というかそういったものが影響してると思うんですけど、そういった
1:08:11	港湾部の周期特性とか、増幅特性っていうことについて把握してるでしょうか。
1:08:25	北海道電力の小寺です。
1:08:28	港湾中の縮ま周期特性という言葉がありましたけれども、
1:08:33	その増幅増幅特性周期特性といったことについては、考察がおよんでいないです。
1:08:40	以上です。
1:08:44	さっきその前に二つ質問した地震に伴う、
1:08:49	津波の
1:08:50	周期特性、
1:08:52	それからあと陸上地すべり川島の周期特性とかそういったところは、これはもう把握してるでしょうか。
1:09:08	北海道電力奥寺でございますが先ほどちょっと公安部だけっていうことに聞こえたかもしれないですけども、そういった観点での考察は、周期特性とおっしゃってますけれども、
1:09:20	そういう観点での考察はおよんでないです全体的に、
1:09:24	以上です。
1:09:33	北海道電力の把握状況については、把握しました。以上です。
1:09:43	規制庁谷です。あとですね私の方からちょっとさ、最後にこの最後、私の方から最後に確認したいんですけど、これって、例えば 142 ページで、
1:09:54	確認していきたいんですけども、
1:09:57	今この 4 ケースケース①から④っていうのを、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:06	この絵では、見れるんですね
1:10:09	川白の地すべりと重なる範囲に対して、ピークがどこにあるかっていうのはこの4ケースで見れるんですけども、これはあくまで4ケースしかこう持ってきてないわけであって、
1:10:20	例えば今回の場合は、ほとんど、このうちの3ケースが、第1ピークと第2び、第2版のピークっていうのの間に、
1:10:31	川白の地すべりが来るタイミングが来ているってということなんですけども、これは下によっては、第1ピークがもっと効果はしらの波源、この4ケース以外ですよ。
1:10:43	河白戸重なるような範囲に入ってきたり、或いは第2ピークがもっとここ早まって、この範囲に入ってきたり、
1:10:52	するような波源っていうのは、それはたくさんあるっていうふうに思ってるんでしょうか。
1:11:00	もっともっといろんなパラメーターありますねパターンだっているいろいろある施工は下のA B C Dっていうのもあるし、
1:11:07	アスペリティ時間。
1:11:11	はい、お願いします。
1:11:14	北海道電力の奥寺でございます。
1:11:17	前回の会合でいただいたところの、
1:11:22	考察の方向性として、代表珪藻をどうにか絞り込んで、まず大きな目で見られるかどうかと。
1:11:32	そういう観点で、今、考査通すべきもの、どういう代表的なケースで大きい傾向が見られるかということ、
1:11:43	分析してきたそういう流れでございます。関係で言いますと139ページの地震に伴う津波の最大ケースの分類や、
1:11:54	今T s からT s プラスPの間で、最大になるケースの特徴が7Dということで、
1:12:02	出てきておりますので、素行に絞ると、大きな特徴が見えるのではないかというような、現在の考察範囲はそういうところ今回の資料をまとめている次第です。
1:12:16	従って今、絞って分析をしているという内容についてはこの資料の範囲のところですよ。以上です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:32	はい規制庁単位、今の範囲っていうのは私もわかってるんです。ここの資料になんか入ってる範囲っていうのは、ただ、今後どういうふうな方向性でまとめていくかっていうのをですね、
1:12:44	そういった観点でちょっと聞いているのであって、
1:12:49	例えば他にも、この波源の他にも第2ピークがもっと早くなってきてきてその相対関係としてですね川白戸、そこにすごく高い波が来るものが、
1:13:00	あるのがわかってる、或いは第1ピークがもっと遅れてきて、川白戸重なるものがあるのがほかにもあるのがわかってるとかいう中で、
1:13:10	今後どうやって整理していくのかって、
1:13:13	いうのを、わかってるのかわかってないのかわかんないすよ。何か考えていかないと、なかなか波源選定の妥当性という部分が、
1:13:25	クリアしないんじゃないのかなっていうような気持ちもあって今確認した次第で、そういったこともですね今は検討はしてないっていうのはわかりますけれども、
1:13:37	ここ今後何かしら小考えを持っていかないといけないと思っています。これすいませんあの会合じゃないのにちょっとコメントしてしまいましたけれども、そういう趣旨で、私今確認したというところです。
1:13:55	北海道 05 オクデラでございます。位相が異なるという言葉で今回説明させていただきましたけれども、そういう特徴が、
1:14:06	他の波源とかを見たときに、どういう状況にあるのかというような、
1:14:14	今回分かったことから、どういう現象が、
1:14:20	見られるのかと、というような視点を持ってちょっと今後の考察、どういうふうにやっていくかっていうのを検討したいと思います。以上です。
1:14:34	タニです。はい。お願いします。
1:14:49	規制庁佐口ですけども、何点、何点かちょっと確認をさせてください。最初の説明あった、
1:14:59	何ページかな。99 ページで、回答方針というところであってで、実際にじゃあその評価方針っていうの 134 っていう、
1:15:09	134 は最初に書いてあったんで、ちょっとここは割愛しますというお話でしたけれども、
1:15:18	この丸がいくつあって、上から四つめの丸。
1:15:25	ここの部分で、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



1:15:27	検討対象とする評価項目地形モデルについては下の入れかわりが発生したケースは、
1:15:36	いずれも組み合わせの最大ケースが断層パターン7のケースになるってあるんですけど、これは、
1:15:44	あくまでも検討する県との検討をするっていうのが、その二つ上のマルかな、この健全地形モデルと、
1:15:54	あと損傷を考慮した地形モデル①、
1:15:58	というものを、
1:16:00	を限定したらっていう意味で、
1:16:04	書かれているのかで、もう少しさらに言うとさらにこれ、あくまでも上昇側っていう、いろんな条件を、
1:16:13	満たした上で、言われているのかそれとも、
1:16:18	他の全体的なものも含めてですね、ここに書かれているもの以外も含めて言われているのか、どちらでしょうか。
1:16:31	北海道電力の青木です。
1:16:34	説明の検討対象とする評価項目地形モデルについてというところが、
1:16:42	大事なところだと考えてまして。
1:16:45	この範囲、例えば、上段に記載してる防潮で前面から放水この上昇側と健全地形モデル防波堤の損傷フォール知見を①に限定して言うと、
1:16:56	入れかわった後は出すパターン7になってるっていうところが事実でございます。
1:17:02	具体的な説明で言いますと、
1:17:05	この次のページの100、
1:17:08	規制庁されます。わかりましたそれだけちょっと確認をさせていただきたかったというので、当然ながらそれは私も確認できていて、おそらく137ページでこれ説明されている部分だと。
1:17:21	思っていて、当然健全経営モデルと、地形モデル①って見ると、赤字で書かれてるとかモデルナ、ただそれはあくまでも上昇側においてね下降側だったら、断層パターン6っていうのは当然あって、
1:17:34	あと、地形モデル②とか③だって、断層パターン6っていうのは、
1:17:39	あるんですけど、あくまでも
1:17:42	所条件下においては、こんななあっていうのが、それが重要なんですけど、ということをおっしゃってるっていう今お答えだったのでそこは理解しましたけど、そうするとじゃあなんで当然ながら、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:55	この
1:17:57	地形モデルとかを絞った。
1:18:01	ものでいいのかわかっていうのは、
1:18:04	どっかに書かれてるんですけど。
1:18:12	藤北海道大学の青木です。地形モデルを絞って言うってところの機械については、
1:18:20	538 ページ。
1:18:23	のところの、
1:18:25	二つ目のところですね検討対象とする地形モデルのところ掲載があります上昇側の評価項目ごとの最大値になるってところは、
1:18:35	絞った理由になると考えております。以上です。
1:18:40	はい、規制庁サグチですわかりましたので、あくまでも最大値となるようなところを、そこを見ておけば十分だと。で、それーで検討しますよってそういうことでよろしいですね。
1:18:56	北海道電力青木です。その時の認識です。
1:19:00	はい。規制庁佐口です確認はできました。で、そのあと先ほどもちょっと
1:19:07	いろいろと確認あったんですけど、
1:19:10	例えば 142 ページとか 144 ページ、146 ページで、いろんなこういった形があって、こういう、
1:19:21	ことで、
1:19:22	入れ替わりが発生してるんですよっていうご説明だったと思うんですけど。
1:19:28	例えばですね一番わかりやすいのは、140。
1:19:33	114。
1:19:34	ページとかかな。
1:19:37	全部多分一緒だと思うんですけど、一番右のその葉系の特徴の一番その組み合わせのところですね。
1:19:44	これで、これ全部
1:19:46	142 も 144 をさらにあともう一緒なんですけど、
1:19:52	その波源の入れ替わりの理由として、
1:19:55	まず、
1:19:57	陸上地すべり、
1:19:59	ていうの水位が大きかったと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:01	で、
1:20:07	あと例えば、その7の、
1:20:10	ケース登録のケースって比べてみると、6のケースっていうのは、
1:20:15	組み合わせによる所水位の上昇分が小さかったんで、
1:20:19	入れかわりが発生したって、
1:20:21	これだけなんですけど、
1:20:23	実はこれ、もともとの、
1:20:26	いわゆるピークとなるところですよ。
1:20:28	これって、
1:20:30	例えば、
1:20:32	6、6とかだと、下がっ
1:20:34	ちゃってないですかねっていう、むしろそういうことって、その入れ替わりの要因とかってならないんですかねっていう。
1:20:43	ピークというか
1:20:46	買わしらの、
1:20:48	水位の大きさ、
1:20:50	これはまあ当然あるかもしれないんですけど、
1:20:52	でも組み合わせることによってもともとピークで大きかったところが、逆にこう下がっちゃってるっていう、そういうことも、
1:21:00	何か要因の一つとしてはないのかなと思ったんですけどそれ違うんですかね。
1:21:07	北海道電力の青木です。
1:21:10	もともとの地震単独に比べて組み合わせた場合に水位が下がるっていうところがあるかどうかっていうところで回答させていただきます。
1:21:20	ページですとその次の145ページ。
1:21:24	ところで、ケースもあるものは緑の破線のケースについて結果を掲載してますこのうち一番右側がドイツはLowerの結果になっておりまして、
1:21:34	衛藤地震単独ですと9.29というところがあってそこから組み合わせると同一波動場だと。
1:21:43	例えば100、
1:21:45	両以降の時間差で組み合わせるとこのグレーのハッチングになってるケースで水位が下がってるっていうところは事実としてございます。
1:21:53	以上です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:21:57	はい。事実確認はわかったんですけど私が確認したかったのところは、もうもともとそのピークとかその最大水位って言っていた。
1:22:09	数字自体が、組み合わせることによって、そのまま残っているのか、それとも大きくなっているのか、それとも小さくなっているのかっていうその、
1:22:21	もともとのピークピークですよ、そういう分。
1:22:24	組み合わせることによって場所がちょっと場所とか時間がちょっと変わって大きくなったり小さくなったりってのはあるかもしれないですけども、もともとピークとして、最大値として、
1:22:34	出していたところが大きくなったり小さくなったのかそのままなのかっていうそこをちょっと確認したかったんですけど。
1:22:54	北海道電力の青木ですと 144 ページの地震単独で見ますと、
1:23:02	とケース⑤の、
1:23:04	緑色の破線でいうと、地震単独のピークはと第 2 はっていうところで、時間でいうと 23 分頃のところが一番ピークになっております。
1:23:16	このピークに着目して組み合わせた場合に、水位が上がってるか下がってるか同じなのかっていうところが、確認事項というところでもよろしかったでしょうか。ちょっと質問に質問で返して申し訳ありません。
1:23:30	はい。規制庁サグチその通りですもう少しゆ言うとですね、
1:23:36	この 140。
1:23:38	6 ページかな。
1:23:40	146 ページでは、
1:23:42	もともとのピークと、今回その組み合わせたピークの、
1:23:47	こんなところがちゃんと高野矢印があって、
1:23:51	もともとはこうでした、組み合わせはこうでした。なので、波源の入れかわりが発生しないみたいなこういう、
1:23:58	のがあるんですけど、なぜその前の 144 ページとか、
1:24:03	142 ページとかっていうのは、同じような、こう表示というのか、記載になっていないのかなと思って。すいません。これすごく素朴な疑問かもしれないんですけど、
1:24:15	よろしいですかね。
1:24:21	北海道電力の青木です。当社の考えとしまして、146 ページの K N H K モデルの 12 号取水口、
1:24:31	については、衛藤、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:34	目的なので伊井が大きくなる理由というところでなので位のピークは書いてるところですが、実際この波源については入れ替わりは発生していませんって、いないところで、衛藤。
1:24:48	ケース。
1:24:49	①の緑の破線のほうがステージが最大になってるっていうところがありますのでこのケースはちょっと、あとは特別な扱いなのかなというところで、
1:24:59	この緑の線の第2版のピークを書いているという位置付けになります。それ以外のケースについては、7-Dの方が最大ケースになっているので、
1:25:10	それ以外のケースについては、
1:25:13	引き出し点で数字を書いてないというところが事実でございます以上です。
1:25:22	はい。規制庁佐口です。一応
1:25:25	お答えというかご説明はわかりましたので、私がすごくストレートに言くと、
1:25:36	単純な、用地震に伴う津波単体の、
1:25:41	筧と組み合わせによる波形どういうふうに変っているのか、特に、
1:25:49	単体で見たときのピークをたたき出していたところの波形というのが、組み合わせた後、
1:25:56	どういうふうに変ったのかっていうのがちょっと、
1:25:59	よくわかりませんっていう。
1:26:01	質問です。
1:26:11	北海道電力の青木です。地震に伴う津波から組み合わせることによって波形がどう変わるかっていうところが、今の資料では見えてないっていうところの、
1:26:21	確認だと思しますので、ちょっと扱いについては検討させていただきます。以上です。
1:26:46	は、
1:26:47	8 規制庁のヤマシタです。
1:26:49	今回時系列、100、今お話のあった144とかこの辺りの詳細が見えてきて、逆に何かちょっと疑問も生まれてきたのでちょっと教えてください。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:27:05	まず、今回の地すべりの8Kとか見ると、結構短周期だなんていうのを感じるんですけども、
1:27:13	解析の方ではおそらく、いわゆる長波理論とか、潜水理論と言われるものでやってると思うんですが、
1:27:20	そこの何でしょう、お考えというのをまずお聞かせいただければと思います。
1:27:35	北海道電力、奥寺です。
1:27:38	今おっしゃった静水理論等、通常の
1:27:44	理論に基づいた
1:27:48	検討を行ってございます。
1:27:52	解析値保険等については、
1:27:57	いろいろ、
1:27:58	防止間隔の設定とか時間間隔の設定とかあるかと思えますけれども、特段問題ないかなと考えております大きな意味です。はい。
1:28:08	これはそうですね。保守性の意味で、潜水モデルでやってるっていうところでいいんでしょうか。
1:28:18	な、おそらく多分、
1:28:21	何でしょう。
1:28:22	制度メインモデルやったら結構発行が下がってしまうんだろなと思いつつも、今回そういった潜水モデルでやるってことは、おそらく保守性の観点から、
1:28:33	されてるのかなとか思ったんですがそういうお考えのもとでは、
1:28:37	よろしかったでしょうか。
1:28:46	北海道電力の奥寺でございます。今取り扱っている地震に伴う津波或いは陸上地すべりのレベル間の津波を取り扱うのに、
1:28:58	問題のないモデルということで通常広く使われてる或いは土木学会等で示されているようなモデルが適用可能ということで、
1:29:08	現在の検討を進めてございます。以上です。
1:29:12	はい、ありがとうございます。
1:29:14	それで、こういった結構短周期な波ってというのは、逆に非線形性みたいなもの強いと思うんですけども、
1:29:23	先ほどのような重合する場でいろんな逆転とかする可能性とかを、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:29:29	そういう、こういった波のみ短さっていいですか、例えば長井波で高い、同じ高さの波が二つぶつつかっても、
1:29:39	2倍ぐらいしかなんないけど、こういった短い波がぶつかると3倍とかなったりする現象もあるんですが、
1:29:47	そういったところの観点で、
1:29:50	見ていらっしゃるかとかそういったところ、
1:29:54	いかがでしょうか。
1:30:01	北海道電力奥寺でございます。そういう観点では、考察等を行っていないです。
1:30:10	火災等々でもいろいろやっているかと思えますけれども、そういったものと同様な、と同レベルの検討をやっているかと、そのように認識してございます。以上です。はい。ありがとうございます。
1:30:24	また続くんですけども、こういった短い波だと、何か壁に当たったときスプラッシュみたいなのが出ると思うんですが、
1:30:32	そういったものはこの今のモデルでは再現ももちろんできないんですが、いわゆるやっぱ一般みたいな越流ではなくてパンみたいなものっていうのは、
1:30:42	こういったなんで証券等ではあまり、
1:30:46	重要ではないっていう認識でよろしいでしょうか。
1:30:50	その意味で、おそらくそういうスプラッシュみただったら3次元とかだけど、そこでは、そんなスプラッシュみtainのあんまり問題ではなくて、越流に着調停が出ないといけないから、
1:31:01	こういったモデルを使った方が、効果的っていうか、そういう流れでよろしいでしょうか。
1:31:12	北海道電力、奥寺でございます。現在の検討の適用範囲等については、土木学会等でも企業の文献等で整理されているかなと。
1:31:25	そのようなものを参照してございますけれども現在我々がやっている内容というのは、その適用範囲で、通常
1:31:35	新港サイト等でもたくさんやられてるかと思えますけれどもそのような、
1:31:40	実績のある手法で検討しているということで今回、細江小出の話につきましては層状境界条件使って解析しております。
1:31:51	以上です。
1:31:52	はい、ありがとうございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:31:55	そうですね。おそらくそうなのでしょうね。
1:31:58	等ですね 162 ページ目とかのところ見てみると、
1:32:02	結構八景とか空間案件みたいな電波で見せていただいでて、
1:32:08	待つん興味深いなとか思いながら見てたんですけども、結構斜めに交差するような場合の、
1:32:16	状況とか出てて、こういうときに、ちょっと技術的な話になるんですが、中間反射みたいな、
1:32:24	自然ケースって現象が起こってその場合は、結構波が大きくなりますとかいうのが、知られてるんですけども、
1:32:32	そういう観点とかも、
1:32:35	もしあったら教えていただきたいんですがいかがでしょうか。
1:32:44	小寺でございます。すいません私椎野、今日不足、
1:32:49	こんなところがございませけれども、ちょっと今おっしゃってるようなところまでは考えがおよんでいないのが事実でございます。
1:32:57	以上でございます。はい。ありがとうございます。
1:33:01	そういう斜めみたいところが結構効いてきてるようなところとかも、今回の考察の中でもしかしたらあるんじゃないかなとかも思いましたので、
1:33:13	少しご参考になればご検討いただければと思います。以上です。
1:33:40	規制庁谷です。ちょっとツナ時間もだんだんこう、
1:33:45	押し来てるので
1:33:49	津波のお話議題は以上にして、スケジュールの
1:33:54	方に移りたいと思いますけれども、
1:33:56	スケジュールの簡単に内容を説明していただいて 5 点だけ、それで確認に入りたいと思いますので、短めに説明をお願いします。
1:34:10	はい。北海道電力の金岡です。資料 1 枚ものでお配りしてます 8 月 5 日の審査会合での審議結果に対する対応こちらの 1 枚目のまずご説明させていただきます。
1:34:24	こちらですけれども、
1:34:26	指摘内容を、の概要ですが、社内のスケジュール管理について、一元管理ですとか意思疎通を適切に改善した上で、
1:34:37	最終的な基準津波の策定期間を示すことというご指摘と認識してございます。これに対してですけれども、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



1:34:45	関係者で変更内容を明示的に共有した上で、工程影響を確認するなどの改善を図ってですね、
1:34:54	今回最新のスケジュールを策定しておりますので、ご指摘に対して対応しているというご説明になります。こちらは以上になります。
1:35:05	引き続き、スケジュールの方、ご説明させていただきます。
1:35:09	北海道電力奥寺でございます。作業方針と作業スケジュールの件について、変更点等、ご説明いたします。
1:35:18	まずですけれども、
1:35:21	ページで言いますと、7ページ目をご覧ください。
1:35:26	7ページ目ナンバー一位の
1:35:31	作業状況ですけれども、こちらの方を作業状況の検討は終了と、あと、あとまとめ資料の作成は終了ということで、最新の状況に変更してございます。
1:35:42	続きまして8ページ目のナンバー2でございますが、こちらも作業状況ですが、整理を行った上で検討は終了ということで最新の状況を反映してございます。
1:35:54	続きまして、
1:35:58	7番、11ページでございますけれども、11ページにつきましては読み上げませんが、茶津入構トンネル等の検討状況、
1:36:09	作業方針、アクセスルート等を等の作業方針について追記、それと作業状況につきましては、現在の検討状況について追記してございます。
1:36:21	引き続きまして12ページ目をご覧ください。
1:36:24	ナンバー8でございますけれどもNo. 7の件について、作業方針のところに、評価点と、に茶津入構トンネル、
1:36:35	S AアクセスルートトンネルAこういうものを追記してございます。また作業状況についてもシミュレーション実施中ということで最新の状況でございます。
1:36:46	続きまして、
1:36:48	1ページ目をご覧ください。
1:36:51	15ページ目はNo.14でございますけれども作業状況について検討は終了という最新のステータスでございます。
1:37:00	へえ。
1:37:02	続きまして、18ページのNo.18でございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:37:07	こちらの方敷地内の件ですけれども、作業状況について解析を進めているというところでこちら最新ステータスに変更してございます。
1:37:17	作業状況についての変更というのは以上でございまして、続きまして、工程でございましてけれども24ページをご覧ください。
1:37:28	24ページの変更点でございましてけれども、まず基準地震動を策定につきまして、一番と2番、こちらの方のまとめ資料等について、
1:37:42	8月29日資料提出そして10月17の週に、審査会ご希望ということで、工程の方を見直してございまして最新の状況に見直しでございまして。
1:37:53	それに伴いまして、
1:37:56	年超過確率の参照ナンバー3。
1:37:59	それらについてナンバー3について、10月24の週に資料提出12月5日の週に、
1:38:09	審査会ご希望ということで工程を見直してございまして。
1:38:13	また津波の方でございましてけれども、7、7番の'というものを付け加えてございましてこちらの方、茶津2歩トンネル衛星アクセストンネルの項目を、
1:38:26	追記しているということでございまして。またその上の7番でございましてけれども、現在、今日もヒアリングさせていただきましたけれども、
1:38:36	中間報告の内容を追加、そしてそれを踏まえて会合の希望時期を追記。
1:38:44	またそれを踏まえた最終的な検討に向けた我々の目標工程希望工程というものを12月19、
1:38:54	修理審査会ご希望ということで、最新の工程を示してございまして。
1:39:01	また、この内容に変更に伴いまして、No.6、No.8、No.9の
1:39:11	資料提出、最終的な基準津波の策定等に関するものでございましてけれども、12月26の週に資料提出、また1月30の週に審査会ご希望ということで最新の状況を反映。
1:39:25	さらに、そのあとほどでございましてけれども、茶津入構トンネルの検討、7'ですね、10番と11番。
1:39:37	こちらの方の、後工程について2月13の週に資料提出、3月27の審査会後、そのような希望に関する工程を
1:39:47	変更してございまして。
1:39:49	またこちらの方に赤い線でクリティカルパスが書かれてございましてけれども、管路解析に関わる事項の視点につきましては、現在我々の中での作業実態に合わせて、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:40:03	変更前は会合としてございましたけれども変更後については資料提出のところに、赤線を持ってきていると、そういう変更をしております。全体的な話として言い忘れたところですけども、
1:40:16	旬で順で、月の予定を示してございましたけども集中間に変更しております。
1:40:25	続きまして、25 ページ目をご覧ください。
1:40:29	25 ページ目につきましては、火山全般に関わる最新の工程について、提示しております。
1:40:40	最終的な時影響評価から風間モニタリングの審査会合時期については2月13の週に変更となっております。
1:40:50	それに伴いまして、20番の敷地の地質地質構造に関する資料作成時期を、後工程にずらしております。
1:41:00	26 ページ目をご覧ください。
1:41:03	26 ページ目につきましては、通しNo. 7の赤字で書かれているところでございますけれども、
1:41:11	ナンバー7の検討をの審査会合時期が12月19の週にスライドしたことに伴いまして、関係性の応酬点もスライドすることから、プラント側の検討でございますけれども工程への影響を検討中でございます。
1:41:27	同じく、27 ページ目でございますけれども、
1:41:33	23番の津波PRAの件でございますけどもこちらの方につきましても関連しておりますので、工程への影響を検討中でございます。
1:41:43	説明につきましては以上でございます。
1:41:49	はい、説明ありがとうございました規制庁タニです。
1:41:52	確認に入っていきたいんですけども、
1:41:55	これ
1:41:57	21日に、私たち介護、
1:42:00	予定しておりますけれども21日の資料と同じ内容ということでいいですかね。会合のこの、この内容で会合資料になるっていいですかね。
1:42:11	北海道ではリコー小寺でございます。この内容で審査会合をの資料として提出していると、そういうことでございます。
1:42:20	はい確認できました。
1:42:22	それで、ちょっと何か全体の作り方の話なんですけれども、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:42:28	例えばこのプラント側の単位 102627 ページっていうのが、これは 2、9 月 29 日の会合時点だっていうこと。
1:42:40	付けているんですけど実際はこれあれですかねもう、
1:42:44	そっから、
1:42:46	県、
1:42:47	ここの 29 日時点から、プラント側との説明の中では、もう違う工程こっからさらにブラッシュアップされたような工程が、
1:42:58	提出されている、或いは、
1:43:00	21 日の会合までに、またブラッシュアップされたもので説明がされる。
1:43:07	んですか、それとも、
1:43:09	今、今時点ではこのままの工程になってるんですかその辺確認させてください。
1:43:17	はい。北海道電力の金岡です。プラント側なんですけれども、この工程をですねブラッシュアップした内容について、昨日ですね資料を提出させていただきました、
1:43:31	明日なんですけれども、プラント側ヒアリングを行う予定としてございます。
1:43:39	そのあとですね、その情報をもとに、審査会合を、を行うということで、今後調整させていただきたいと思っております。以上です。
1:43:52	はいタニです確認できました。これいい悪いとか言うつもりはないんですけどつまり 21 日の会合の段階では、
1:44:01	プラント側に、20 日にプラント側に説明するっていうのと、違う内容で、これがこうこう公開されるっていうことを、
1:44:11	でいいですかね。
1:44:13	だから黄砂最新版じゃないんだよここは、プラント側に説明している、ヒアリングで説明している最新版じゃないものが 21 日は出るっていうことで、
1:44:22	そういう関係になるってことですかね。
1:44:27	はい北海道電力の金岡です。衛藤最終ということに関してはそのようになります、明日 20 日は
1:44:37	ヒアリングですので、あくまでもここにこの資料で更新をかけるのは審査会合と考えてございますので、そういった観点では、
1:44:48	逆転はしていないのかなというふうに考えてございます。以上です。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:44:58	規制庁谷田はい状況はわかりました。この辺の管理の仕方とかまた会合でも話があるかもしれませんが。はい。次に行きたいと思います。
1:45:08	でですね、私のちょっと確認したいのが、11 ページ。
1:45:13	なんですけれども、
1:45:15	今基準津波の策定で、
1:45:18	さっき説明いただいたコメント、基準津波に関するコメント回答というのは下のもの、もうちょっと分析をしていますねっていうところがあるんですけど、それってここには、
1:45:29	入ってきてないん。
1:45:31	ですからどっかでごう、そういう分析をしているっていうのがここから読めるんですか、確認させてください。
1:45:46	こっから労働力のオクデラでございます。それ、
1:45:51	分析も含めて、パラメータスタディの実施の中に含めてるということで、その部分について明示的な記載はしてございません。
1:46:04	具体的に言いますと、茶津に異なると、とかのパラグラフの前のパラメータスタディを実施しますというこの中に含まれているような、
1:46:15	そういった認識でございます。
1:46:18	言葉が足らずかもしれないですけど、は我々の考えは以上でございます。
1:46:27	はいタニですはい助教確認できましただからこういったものが入ってるからとあえてこう付け足すようなことじゃないっていうふうに北海道電力は思ったということで資料できるってことですね。はい。
1:46:40	城奥寺でございます。
1:46:43	工程表の方には、今は原因の分析というものの中間報告ですね、この中間報告というところを、
1:46:52	明示していると、そういうような作りでございます。
1:46:56	以上です。補足です。
1:46:59	はいタニですはい状況はわかりました。
1:47:03	あとは、
1:47:06	確認したいこととして 24 ページに、今回 7' でジャズ入構トンネル、
1:47:14	っていうのが入ってきたんですけど、
1:47:17	これなんか私はじめてこれ知ったんですけど 8 月末に、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:47:22	ジャズ入庫トンネル小口地を決定した上で、もう検討に入られているんだということで、やっぱりこれ見ん、
1:47:32	出してもらってよかったなってこれ抑止わかってなかったのですね、と思うんですけども、このチャーズ入校トンネル坑口位置決定っていうのは、もう
1:47:43	これは決定をしたっていう認識なんですか北海道電力として、この
1:47:48	入庫トンネルじゃもうここしかないって言うのもう決まってるんですか。
1:47:56	北海道電力、奥寺でございます。ここ、一応候補として、やっていくということは社内の検討として
1:48:07	決まっていると、そういうような状況でございます。
1:48:13	以上です。
1:48:16	ちょっとちょっとすいません。はい。
1:48:20	内1については、社内の検討状況としては決定した上で、進めていると、そういう状況でございます。
1:48:32	以上です。
1:48:37	やっぱりちょっとよくわからなくてこれ、検討するための位置を検定したっていうのもう絶対ここで坑口を決めた後は、
1:48:46	もうこれ、ここで今僕の方は、プラント側とこういった計画でっていう
1:48:53	何か議論している最中かという認識でいたんですけども、
1:48:58	その位置も決め、決めてるんですか。それともあくまで、ここで検討するっていうことを決めたっていう意味なんですかっていう、ちょっとその辺をはっきりして欲しいなということで確認しています。
1:49:11	北海道電力の奥寺でございます。ちゃんとトンネルについては、大きい意味ではですね、いろんなルートが候補としてはあるだろうということで、それをスクリーニングしていくと。
1:49:25	言った時に、当社として、今、里トンネル、の
1:49:31	家を設定して、明かり部を途中に設けて構内に進入すると、そういう案が我々として最適解であると考えているところをプラント側審査の中で説明してございます。
1:49:47	その説明の上で、今、プラント側とのやりとりになりますけれども概ね理解終えているのではないかという状況で、その上で、ただしですけども入力ツアーを決定しナイトウその考えが最終的に妥当かどうか。
1:50:01	判断できないと言われている状況でございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:50:05	で、具体的な我々の検討を少し分踏み込むですけれども、現時点では、調整とか、もしかしたらあり得ると。
1:50:16	そういうような状況も考えてございますので、保守的な評価となるようにですね、ちゃんと丹野小口とか明かり部とか、その辺りを包絡するような、
1:50:27	広間ファイルをオーバーするように評価範囲を設定しながら、萩谷の影響の大きい波源に関して検討を進めているような状況です。
1:50:38	はい。以上です。
1:50:40	規制庁、藤原です。プラント側の審査で携わってるのは、栗田さんとよくやってるかと思うんですけど、皆さんがプラント側のちょっと認識なんですけども、ごめんなさいここで24ページの、
1:50:52	茶筒空港トンネルの坑口位置決定というふうに、すごいぎらついた記載になってますが、私はそういう認識はございません。
1:51:03	私の認識は、まずある仮定をして、それに対して津波の高さを評価し、それがエラーが出たら、別の対応をとる、そういったトライアンドエラーを今後、
1:51:16	繰り返すための、まず最初何か今神が言った、要は検討する、その概ねの何か方針が定まった、
1:51:25	というところがまず、何かそこ認識あります。後ですのでちょっとこれは言い過ぎのようなちょっと印象を受けてます。あとそれに加えて、
1:51:36	何ていうんすかねそもそも8月末でなかースタートっていう、
1:51:41	ただ社内ですっていうことなんですけどそもそも何を、今多分何かちらっと言われたら、何かエリアで設定とかいう話っていうかこれ、何かまだ何も私ども聞いてなくてですね、
1:51:54	要は何ですか、基準津波の策定に影響を押し内容のその評価の方針をどうやるんですかっていうのをプラント側に、
1:52:04	玉田の聞いてません。
1:52:06	それはまた今後の審査会合等で改めてお話をすると思いますが、一応ちょっと決めずに私の認識としてはそういうことです。以上、よろしいですか。
1:52:20	北海道電力の奥寺でございます。決定という言葉につきましては、我々が検討していく、基本条件の決定ということでここには書かせていただいているので、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:52:33	三浦さんが今おっしゃったような状況かと、同じ状況かと思ってますんで、その意味で正確に決まっていないので、こちら私、基準津波、
1:52:46	検討の範囲かと思って説明させていただきましたけれどもまずはですね、その評価範囲を幅広く網羅するよというの、先ほど、細かいところも含めて最終決定がなされているとか、そういうことではないところの、
1:53:01	上も踏まえて網羅的に幅広い範囲ということを申しました。
1:53:06	誤解がありましたら申し訳ないです。以上です。
1:53:11	規制庁の名倉です。聞こえてますでしょうか。
1:53:16	聞こえておりますので、すみません私の理解は11月1日にプラント側の会合、
1:53:25	まず社長入構トンネルを含めた入港ルートを選定に関しては施設側でまだ審議をしていると。
1:53:34	ただし、事業者の方では、基準津波への影響を検討することが、これを早期に見通しつけておくことが重要だと考えていて、
1:53:46	そういう意味でちゃんと入構トンネルの坑口の概ねの位置を設定をみずからした上で、基準津波への影響をの検討は事業者としてはもうすでに回収している。
1:54:03	いうことをこれは言っていると。
1:54:05	ただこの決定っていうのはあくまでも設定であって、解析上検討上設定したものであって、それについては今後変わる可能性は結果に応じてあるかもしれないというものだというふうに理解をしました。
1:54:21	ここら辺の何か検討の位置付けとかですね、それからどういう仮定を置いて、
1:54:27	あくまでも仮定条件としてやっているんだっていうことであればその旨ですね、会合等で説明していただければと思います。私からは以上です。
1:54:42	北海道電力奥寺でございます。氏原さん、或いは名倉調整官からおっしゃった通りの、我々の検討するための条件決定というのを行わないと今後の検討っていうのは、進められないということで、そこを明示した次第です。
1:54:59	状況等について誤解なきよう説明させていただきます。会合においてですね、以上です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



1:55:24	はい規制庁タニそれじゃこの資料はもうこのまんまでいくとして会合のときにこの記載によって何かいろんな人がこう誤解を受けないような説明をしてもらおうということでよろしくをお願いします。
1:55:36	あともう1点ちょっと細かい話なんですけれども、これあれですよね介護をこれまでやった後、タイミングでこれ何か
1:55:45	ホシの塗り潰しをやっていくんですよ、これって何か7番って。
1:55:50	介護やりましたよね。なんかその辺、
1:55:53	やってないことになっていませんか。
1:56:32	辛くしておりました。誤記でございます。
1:56:38	修正と可能でしょうか。
1:56:42	いやこれも会合でもう口頭で説明してもらったらいいかなと思いますけれども。
1:56:48	どうします。どうしても出し直したいっていうんだったら、それは受けてもいいですけど、
1:56:57	等々で動き等あるので、説明させていただきます。申し訳ないです。
1:57:04	はい。お願いします。
1:57:33	谷ですけど、スケジュールの方も事実確認、時間が来ましたのもうこれで終わりにして、あとはもう次の会合、今週末の会合で、
1:57:45	確認として、さしていただきたいと思います。
1:57:50	北海道電力から何かありますか。
1:58:01	北海道電力松村です。藤からは特にございません。
1:58:10	はい。谷ですけども。
1:58:12	じゃあですねヒアリング以上にしたいと思うんです津波の方はですね会合のタイミングこちらでも検討しまして、早ければ今月末っていうのもありますのでその辺決まり次第連絡させていただきますので、
1:58:27	それに向けて、ちょっと資料をどうするかとか、考えといていただけたら、今週末の今月末の場合は、
1:58:36	ここまでちょっと直すとかですね。そう。もっと時間がある、ありそうだったら、もうちょっとこう、修正必要だったら、それはしてもらってもいいかなと思いますので、その辺は、
1:58:48	ロジ的なやりとりとして連絡させていただこうと思いますのでお願いします。いいですかね。
1:59:02	北海道6オクデラでございますその通りで結構でございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:59:08	はい。それでは、甲斐ヒアリングを終わりにしたいと思いますどうもお疲れ様でした。
---------	---

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。